

# 風水火地

第33号

県議会議員佐地茂人活動報告

県議会議員として4期目がスタートし、一年がたちます。  
4年間を大切に、静岡県を未来へ進めます!!

日頃は、さち茂人の活動にご支援とご理解を賜り、誠にありがとうございます。

改めまして、県議会の議席を与えていただきましたこと、深く感謝申し上げます。

私にとって、静岡県・静岡市にとっても非常に重要な4年間になると覚悟を決め、精一杯悔いがない活動をしたいと心新たに強い意志を持って活動を始めております。

ウクライナ侵攻によるロシアの戦争、ハマス過激派テロによるイスラエルとの戦争等海外の情勢、物価高騰による国内の経済・生活の課題、人口減少等による地方自治体の施策展開、コロナの影響による地域力の低下…

いろいろな心配事がありますが、激動の中、緩やかに静岡県の進む方向を皆様を示していきたい、丁寧にしずおかのまちを護り、創ることに一所懸命になりたいと思います。

まだまだ至らないことが多い私ではありますが、人情と道徳の政治「情理」をモットーに小さいことからコツコツ、粘り強く「さち」らしく課題解決に取り組んでまいりますので、今後ともさち茂人にご指導と厳しく温かなご意見をいただくことをお願い申し上げます、4期目スタートの決意表明とさせていただきます。

静岡県議会議員 佐地 茂人

佐地議員のLINE  
アカウントです。  
是非登録して下さい。



## さち茂人の今年度の役割

《 議会 》

建設委員会 委員

議会運営委員会 副委員長

子どもの孤立対策特別委員会 副委員長

《 会派 》

難聴対策推進議連 会長

消防団活動支援議連 副会長

《 自民党県連 》

財務委員長

## さち茂人の建設委員会での質疑は、

### 6月定例会

- 「静岡県杉尾・日向地区違法盛土の有害物質と行政執行等について」では、行政代執行による市との連携と有害物質の調査状況と処理方針について質問しました。
- 「建設発生土等の処理について」では、東中西の処理価格とストックヤード整備について質問し、公共で建設発生土仮置き場の設置を求め、実現までのスケジュールを伺いました。
- 「緊急交通安全対策事業について」質問し、区画線の引き直しによる児童の通学路の安全確保の重要性を訴えました。
- 「県有施設のZEB（ゼブ）化について」質問し、3年間で21施設を計画し、今年度は6施設で、そのうち静岡市では静岡総合庁舎とグランシップを省エネ化するとの答弁がありました。（ゼブとは、企業等の大きな建物に手を入れて、断熱材・LED等を活用し、CO2対策と省エネ対策をすることです。）
- ゲリラ豪雨や線状降水帯が頻繁に発生する状況で「安倍川水系丸子川の水災害対策プラン」について質問し、丸子川支川の左右岸で浸水したエリアの被害軽減対策をシュミレーションするとの答弁がありました。

### 9月定例会

- 建設発生土の利活用促進のため「ストックヤードを東中西の3か所にモデル的に整備し、整備計画を策定するとのことだが、3か所の整備状況と今後の整備計画策定についてどうなるのか」との問いに対し、「長泉町内の県有地と浜松市南区の県有地、中部に関しては公募で決定する。3か所のモデル事業の成果をもとに関係法令・配置計画・運用上のルールを盛り込み、年度内に整備計画を作成する。」と答弁がありました。
- 葵区の不適切盛土の杉尾・日向地区における対応状況について、「今後の行政代執行のスケジュールと土地所有者や地元説明などについて伺いたい」との質問に対し、「期限までに監督処分としての命令に従わない場合、業者と契約して11月中には行政代執行の上、工事着手に入る。日向地区は、土壤汚染対策法を所管する静岡市と調整している。地元・土地所有者には、行政代執行の対象となる所有者と境界確認を行い説明に入る。」と答弁がありました。
- 清水港の港湾計画について、①日の出地区のクルーズ船客に向けた賑わい創出の商業機能等の充実について②折戸地区の水辺・水面を活用したリゾートの形成地区に折戸湾再開発に関する地元住民の提言書をどのように具体的に組み込むのか③貝島地区に海洋研究、海洋拠点の形成が位置付けられているが、保安計画の内容と進捗状況についてどうなっているのか、3点の質問に対し、①旧4号上屋（倉庫）を商業機能付き待合所として改修し、来年度にかけサウンディング（民間業者等の意見を聞くこと）を行い、具体的な活用を考える。一方、10月オープン民間商業施設に隣接する区画には緑地空間を防潮堤と一体で整備し、静岡市海洋・地球総合ミュージアムが8年に完成すると回遊性が向上していく。②県は提言書を踏まえ、リゾート形成の開発が可能な土地利用計画の変更や水際を散策できる緑道の整備等を港湾計画に位置付けた。現在、地元企業が陸域だけでなく水域も活用した再開発の検討を進めている。例えば、水質浄化などの環境改善に県も官民一体となって協力している。また、清水港カーボンニュートラル形成計画において、折戸湾は温室効果ガスの吸収源となる藻場造成も計画されており、県のマオイ機構、大学、研究機関と連携し取り組んでいく。③貝島地区は、地球深部探船「ちきゅう」や関連船舶が長期停留可能な岸壁と将来関連施設が設置できる用地の整備を計画している。埋立てし、全体的な土地利用には日時がかかるため、埋立て、海洋研究、開発拠点とニーズが高まるエリアから部分共用していきたい。岸壁も中型の海洋研究船「みらい」等、暫定的でも整備を進め、早期の供用開始に努める。との答弁がありました。
- その他、静岡県砂防指定地管理条例改正の方針について質問しました。



リニア工事予定現場



建設委員会での質疑

## 県議会6月定例会で一般質問を行いました!!

今回は、大きく9項目の質問を質問しました。

1)「先天性難聴児の療育体制の確立について」人工内耳装着後の言語力の向上について、早期療養の場の整備と音声言語獲得の指導を行う専門家の人材育成が急務であると伝え、県の今後の取組について質問しました。

A. 知事からは、先進地のオーストラリアの手法から音声言語の獲得を目指す全国初のパイロット的な療育の場の整備を視野に具体的な体制の検討を進める。人材育成では、聴覚の評価や聴覚補償などを扱う学問領域であるオーディオロジーに関する人材を静岡社会健康医学大学院大学にて育成する。との答弁を頂きました。

2)「静岡県の新産業への取組について」では、A.循環型のビジネスモデルへの転換として静岡大学のセルロース循環経済研究所と連携し、リサイクル性に優れたCNF(セルロースナノファイバー)の社会実装を推進する。また、海洋資源を活用し、新たな産業を創出するマリンバイオ分野では、環境保全と経済成長の両立を図るブルーエコノミーの視点を踏まえ、海洋微生物ライブラリーなどの研究成果のオープンデータ化をさらに進め、産業応用に向けた研究開発を支援する。との答弁がありました。

3)令和4年の出生数は20575人、4年間で25192人から5千人近く減少した危機的な状況を伝え、「若者の意識に寄り添った少子化対策について」質問した所、A.新たな取組として県内の中学、高校、大学の13校をモデルとして、子育て中の講師から就職、結婚、子育て等の実体験を交えて家庭を築くことの大切さや自らの生きがいにつながることを伝え、将来をイメージしてもらおう出前講座を実施する。若い夫婦が働きながら子育てを一緒にできるよう、県内企業の職場環境づくりや経営者の意識改革を図るイクボス養成講座、子育て中の女性のキャリア支援、男性の育児休業取得を促進する。さらに、結婚に伴う新生活スタートを経済的に支援するため市町と共に新居の準備費用等の支援を行う。との答弁がありました。

4)「静岡大学の在り方と静岡県の将来の高等教育について」では、浜松市と浜松医科大学が強力に推進しようとしている一法人二大学案では、静岡大学の学部が減って縮小し、浜松市に法人本部が移る可能性や大学の研究や高等教育が浜松市内で完結してしまう心配…県全体の利益につながらないのではないか。と主張し、静岡県全体の利益や若者を育てる将来のあるべき高等教育はオール静岡で、一法人一大学(静岡大学と浜松医科大学が一つになり、静岡大学医学部として大きな総合大学として県内全体をサポートすること等)が望ましいとの思いから、将来の県内全域の高等教育の在り方を県当局にお尋ねしました。

A. 静岡大学、浜松医科大学、沼津高専など、県内全ての21の高等教育機関が参加する大学コンソーシアムで学長連絡会議等の場を設けて、産学官の連携強化に向けた効果的・具体的な政策を協議している。ここで県内全域の学びを展開し、高等教育の底上げをすとの答弁でまったく質問の内容から離れた答弁でした。

5)「中学校の部活動支援について」教師の多忙化への対応として、学校の部活動・クラブが顧問先生による学校対応から切り離し、地域移行型に変わることになり、予算的にも指導者が足りないことや、与えられた資格の範囲でどこまで指導できるのか、保護者トラブルへの対応等、外部指導者からの不安もあり、県がけん引役となり市町の取組や課題克服を支援すべきではないか。また、県中学総体は中学校が主体であるが、運営等どのようなようになるのか。と質問をしたところ、

A. 現在、県の方針を示し、各市町に地域クラブ活動移行に対する協議会を設置し、今年度内で23市町が設置する。今後、事情に即した可能性の検討を進め、積極的に関与し、調整を行っていく。課題となる指導者の確保は、部活指導員の配置支援や指導者研修を行っていく。中学校総合体育大会は、中学校と地域スポーツクラブが県中学校体育連盟に加盟した上で、指導者が大会役員として運営し、開催される。との答弁がありました。

その他、6)行政代執行による土砂の撤去について 7)リニア中央新幹線の建設推進について 8)東静岡駅南口県有地の整備について 9)静岡南警察署の建て替えについて 質問を行いました。

県・市・駿河区の様々な課題に対して、フル活動で取り組んでおります!!

6月議会の質問を含め、さち茂人の公約に則り、様々な活動を開始しております。

そのいくつかをご紹介します。

県では・リニア建設の推進について 6月定例会で質問を行い、11月15日に建設予定現場へ視察に行きました。今後、建設発生土の置場や処理方法に注目していきます。

- ・静岡大学再編 6月定例会で質問を行い、静岡大学の将来構想を研究、今後、市選出県議や市議の方々と意識を共有していきます。
- ・難聴児対策推進 言葉の訓練、療育の環境整備と人材育成を県で整備するお手伝いをしていきます。12月8日に難聴対策推進議連勉強会を開催し、1月29日に療育の先進地を視察、国へ要望に訪れる予定です。

市では・駿河湾のブルーカーボン ブルーエコノミー推進と清水港湾整備 9月13日に「海洋文化・研究拠点化推進協議会」に参加 今後も清水港の賑わいと環境産業、マリンバイオ産業、海底調査の科学技術実用化で静岡の新しい産業を応援していきます。

- ・杉尾・日向の不適切盛土対策 不適切盛土は県が行政代執行で処理することになりました。静岡市は様々な土を処理するための許可された場所が少ない状況です。建設発生土や要対策土、産業廃棄物などを処理する工程をしっかりと盛土条例、土壌汚染対策法、廃棄物処理法に準じて確認できる仕組みが求められます。建設委員会から杉尾・日向の土処理を1年間のテーマとして質問していきます。

駿河区では・静岡駅南口駅前広場の拡幅計画 静岡駅南口に「世界に通用する、皆が誇れるシンボルを!!」が私の目標です。例えば、世界一大きなクリスマスツリー… 10月6日に行われた静岡駅南口駅前広場再整備検討委員会を傍聴しました。次回は1月9日です。協議を見守り、自分が伝えられる場で発言していきます。

- ・静岡南警察署の建て替え 6月定例会で質問しました。来年度中に新設場所を決定し、土地購入→設計→建設と推進するために県警へ働きかけと協力を惜しみません。



県立こども病院を視察しました

### 編集後記

今年は暖冬と言われていましたが、12月下旬からは10年に一度の大寒波到来と言われ、実際にその寒さの中で新聞を作成しております。昨今は日本も四季を感じなくなりました…夏が終わったと思ったら秋も暖かく、いきなり冬に地球温暖化が原因でしょうかね。10年後にはどの様な気候になっているか不安になりますね。

令和5年12月吉日発行

発行責任者 林 稔久

編集担当 上條、小泉、島村、田中

静岡市駿河区八幡5丁目14-13

TEL:054-287-0939 FAX:054-286-4096